認定 NPO 法人テラ・ルネッサンス
2014（平成２６）年度事業報告

（期間：2014 年 4 月 1 日から 2015 年 3 月 31 日まで）

１．事業の成果

テラ・ルネッサンスの 2014 年度の主な事業内容は、下記のとおりです。

（１） 収入

会費及び寄付、事業収益等の収入は総額 1 億 1,234 万円となり、前年同期比で 4%増加しました。

（２） 支出

支出総額は 1 億 1,544 万円となりました。支出の主な内訳は、海外事業費として、アジア事業（カンボジア事業・ラオス事業）1,806 万円、アフリカ事業（ウガンダ事業・コンゴ事業・ブルンジ事業）3,079 万円、国内事業として、東日本大震災復興事業 3,979 万円、啓発事業及び人材育成事業等で 2,680 万円となりました。

（３） 事業活動の状況

①海外事業

カンボジア王国、ラオス人民民主共和国、ウガンダ共和国、コンゴ民主共和国、ブルンジ共和国にて、国際協力活動を行いました。なお、今年度より本格的な活動を開始したブルンジ共和国においては、自立支援センターの建設と新規プロジェクト立案のための事前調査を行いました。

②国内事業

啓発、人材育成、東日本大震災における被災者支援活動を行いました。

２．事業の実施に関する事項

各事業の詳細は、下記のとおりです。

●地雷埋設地域村落開発プロジェクト【カンボジア】

今年度はバッタンバン州カムリエン郡の２村とバヴェル郡のブオ・ソンクリアチ村、パイリン特別市のオウ・チェット・プラム村での地雷被害者家族を含む貧困層の自立支援を実施した。

～プレア・プット村～

プレア・プット村では地雷被害者パン・プン氏家族への自立支援を始めた。それまで借りていた家を追い出されてしまい、テント生活をしていたプン氏の家族に村の中の住む土地の購入を支援した。プレア・プット村小学校を卒業した生徒たちが通うカムリエン中学校に井戸を１基建設し､トイレや手洗､先生たちの生活用水として使用できるようになった。

～ロカブッス村～

村の小学校の横の道沿いのコミュニティに生活する約 50 家族を対象に、水路を掘削し、揚水ポンプを提供することで、１年を通しての作物の栽培が可能になった。この水路を利用して、各家庭での小規模家庭菜園を推奨しており、毎月のミーティングでは野菜の種を村人たちへ配布している。また村のミーティングでは、手洗講習を実施したり、村のゴミ拾いを実施する計画を立て、村人たちが実行するなど自治を目指して活動している。基礎教育支援として、村の小学校では、学校に通えていなかった子どもたちや、学校の授業を休みがちなために学習の遅れていた子どもたちへの補習授業を実施している。また村の多くの子どもたちが通う隣村のコイ村小学校へ図書室を設置し、本に触れる機会を提供している。収入向上支援として、2014 年４月～9 月まで、クメール伝統衣装の製作技術訓練を７名の村人たちへ実施した。

また村に生活する１名の地雷被害者スー・マウ氏への自立支援として昆虫の捕獲機材と子牛２頭を提供した。これにより、これまで畑仕事による収入しかなかったマウ氏は、複数の収入源を確保できるようになり、２名の子どもたちも学校へ通えるようになった。

ロカブッス村でのミーティングでの手洗講習の様子

ロカブッス村に掘削した家庭菜園用の水路

～ブオ・ソンクリアチ村～

ブオ・ソンクリアチ村では、６名の村人へ裁縫技術訓練を 2014 年 10 月から開始した。2015 年 3 月まで一般洋裁の技術訓練を実施し、６名とも洋裁技術の実技テストに合格している。今後６カ月間で、クメール伝統衣装の製作技術訓練を実施する予定である。

ブオ・ソンクリアチ村での
裁縫技術訓練の様子

～オウ・チェット・プラム村～

オウ・チェット・プラム村に住む地雷被害者チョーク・チエン氏家族への自立支援を開始した。家の壁の補修や、昆虫採取の機材一式と子牛 1 頭を提供している。

●地雷撤去支援プロジェクト【カンボジア】

提携する地雷撤去団体 MAG へ地雷撤去活動費 4000 ドルを提供し、カンボジア北西部に残る地雷撤去活動に貢献している。

●地雷埋設地域教育支援プロジェクト【カンボジア】

2011 年に、バッタンバン州バヴェル郡のブオ・ソンクリアチ村にて建設したブオ・ソンクリアチ村小学校建設において、幼稚園クラスの教員 2 名と図書室の司書への給料を提供することで、村の小学校の教育の質の改善を図り、授業の頻度や小学校の環境美化の整備で大幅な成果を上げている。また、2008 年に建設した穂高小学校では、教育省から手違いで配布されなかった 1–5 年生までの教科書の購入を支援し、また床と屋根の補修工事を実施した。2011 年に建設したオウ・チェット・プラム村小学校では、セラミック製水濾過器を提供している。

●不発弾啓発用漫画本、英語版の製作【ラオス】

ラオスの不発弾問題を啓発する漫画の英語版の製作費をクラウドファンディングの Readyfor?で集め、英語版の製作をした。現在、出版許可をラオス政府の不発弾問題を管轄する NRA を通して申請中であり、ラオス国内の観光地や主要都市のホテルやゲストハウスなどへ配布することで、ラオスに訪れる年間約 400 万人の観光客への啓発を実施する予定である。

●ラオス南部不発弾調査【ラオス】

ラオス南部のベトナム戦争当時ホーチミン・ルートが通っていたアッタプー県、サヴァンナケート県、カムムアン県の不発弾問題の調査を、フォトグラファーの山田しん氏と本会スタッフ江角が実施した。

サヴァンナケート県で見つかった
クラスター爆弾 BLU-26

●ウガンダ北部における元子ども兵社復帰支援プロジェクト【ウガンダ】

2011 年 7 月に受け入れた元子ども兵 20 名（第 6 期生）への 3 年間の社会復帰支援が今年度（2014 年 7 月）に完了し、全員が自らの力で衣食住を満たして生活できるようになった。また、第 7 期生の元子ども兵 19 名に対して、以下の①～④の活動を実施した（～2014 年 12 月）。同 19 名へのフルタイムでの社会復帰訓練は、2014 年 12 月に完了し、2015 年 1 月に、習得した知識と技術を使って収入を向上していくために、ミシンや木工大工用具などの資機材を供与した。現在も継続して、収入を安定していけるように収入向上支援を行っている。

【写真（左）】社会復帰に向けての職業訓練の様子
【写真（右）】社会復帰訓練を終えて洋裁店開店資機材を受け取る第 7 期生の元子ども兵たち

【写真】1 年半の職業訓練を修了した元子ども兵たちが自立していくための供与機材（ミシン、木工大工用具など）

①BHN（人間としての基本的なニーズを満たす）支援活動

生活を安定させるために、訓練期間中、受益者とその家族の状況に応じて、毎月の食費と医療費をクーポンチケットで配布した。そのクーポン券は、受益者各自の近くの食料品

店、診療所でのみ使えるようテラ・ルネッサンスと契約し、村の診療所で治療が困難な場合は、ラチョー病院(北部地域最大の病院)などに搬送し、治療や診療を支援した。また、受益者の家族の状況に応じて、家賃や生活必需品の支給などもあわせて行った。なお、訓練期間中は、毎日給食を施設内で調理し提供した。

②能力向上支援活動

受益者が収入向上活動を始めるのに必要な職業技術、識字、計算などの能力向上に向けて基礎教育などを行った。職業訓練では、洋裁、手工芸、服飾デザイン、木工大工の４科目を開講し、基礎教育の授業で、識字、算数、英語の授業を行った。

③心理社会支援活動

各受益者個別に悩みやトラウマやその程度もさまざまであることから、個別カウンセリングとグループでのクラス（ルーツ＆シューツ活動：音楽や伝統ダンス、自作ドラマの創作）などを通した心理社会サポートを行った。同時に、アチョリ民族の伝統的な和解メカニズムやことわざを基にした平和教育も行った。また、毎週土曜日に、元少女兵の子ども（6 歳～14 歳）と近隣住民の子どもに対しても、伝統ダンスや歌、ドラマの授業を開講した。

④収入向上支援活動

小規模ビジネスのクラスを開講し、貯蓄の重要性、ビジネスの基礎的な知識など、マイクロクレジットを使って収入向上活動をするために必要な訓練を行った。その後、フルタイムの訓練修了後に、木工大工の用具など収入向上活動に必要な備品や機材をマイクロクレジット（小規模融資）とともに供与し、受益者の収入向上を促進した。また、定期的に個別、グループ別の指導を行ってきた。

●不法小型武器問題の啓発活動【ウガンダ】

ウガンダ国内で不法小型武器問題の啓発活動に取り組む NGO のネットワーク組織である UANSA(ウガンダ小型武器行動ネットワーク)との定期的な情報交換を行った。また、同地域の市民社会のネットワークを強化すること及び、一般市民への小型武器問題の啓発が必要との観点から、UANSA の開催するセミナー、ワークショップ、啓発活動へ資金提供を行った。

●コンゴ東部地域における元子ども兵及び紛争被害者支援プロジェクト【コンゴ】

コンゴ民主共和国、南キブ州において下記の活動を行った。

■自給食料を確保するための活動　―食料の安全保障支援―

対象地域は、肥沃な土地に恵まれていながら、長年の紛争の影響で住民たちは十分な食料を確保できず、子どもたちの栄養失調は深刻な状況にある。同活動では、対象地域の 12 カ村に相互扶助（助け合い）グループを組織し、グループのメンバーが紛争下においても協力して自給食料を安定的に確保することをめざして、農業の技術指導、種子、農器具の

供与などを実施している。今年度は、4 つの村が治安悪化により他の村に一時的に避難を強いられ、避難先の村で自給食料を生産できるように、避難民と受け入れ住民に対して農器具や種子の供与を行った。

一方、同活動を開始以降、武装グループによる断続的な襲撃が継続し、治安回復の兆しもなく、避難民を受け入れる村のグループのメンバーの負担も大きくなっている。加えて、治安状況と資金状況により、当会からの食料（種子）支援も村の襲撃後、敏速に供与することが非常に難しい状況にあることから、避難民への支援をより敏速に、かつ安定して実施できるように、共同農場（グローブファーム）を設置した。この農場では、各グループのメンバーらが交代で農作業を行い、一定の食料を生産、備蓄しておくことで、どこかの村で襲撃があった際にいち早く、現場レベルで食料の支援を実施することを第一の目的としている。

【写真：事業実施地域（カロンゲ区域）に開設した共同農場（グローブファーム）】

■収入源を確保するための活動　―収入向上支援―

元子ども兵や性的暴力を受けた女性や孤児などの紛争被害者に対して、収入源を確保するために必要な職業訓練を実施した。また、職業訓練後、収入向上活動を行っている受益者へのフォローアップを実施した。一昨年、洋裁店の開業支援を実施した 5 つのグループは、1 人当たり平均 40 ドル／月は稼げるようになっており、安定した運営が行えている。一方、避難を余儀なくされたグループもあり、時期により収入の増減があることは未だ課題として残っている。

今年度は、新たに 16 名のレイプ被害を受けた女性や、夫に見捨てられた未亡人、孤児、それから、4 名の家族の支えも仕事もなく、コミュニティで孤立している女性の計 20 名に対しての洋裁訓練を実施した。全員、半年間の職業訓練を完了したが、まだ、その技術を活かして実際に収入を得るところまでは到達していない。また、中には、14 歳で結婚して、すぐに夫に見捨てられた 2 名の少女も含まれており、彼女たちは未だに心に大きな傷を抱えており、心理的な支援も必要とされている。

【写真上：洋裁の技術訓練に励む受益者たち】

また、これまで溶接技術の訓練を受けた元子ども兵たちは、鉄製のドアや看板の製作、修復、また、バイク修理サービスを村人たちに提供し、病院や教会のドアなど公共施設に必要なモノの修理や製作も依頼され、仕事を継続することができている。一方、昨年、9カ月間の洋裁の職業訓練を行った 26 名に対しての開業支援は、資金不足で今年は行うことができておらず、来年以降に実施する予定にしている。

【写真左上：病院から注文を受けた門ゲートを協力しながら製作する元子ども兵たち】
【写真右上：完成に近づいた製品をバックに溶接技術者として誇らしそうにポーズをとる元子ども兵たち】

■心理社会的な安定を促す活動　―心理社会支援―

子ども時代に戦闘に加担させられた元子ども兵や、性的暴力を受けた女性たちは、心に傷を負っているだけでなく、コミュニティから偏見を受けたり、疎外されたりするケースがあるため、昨年度に引き続き、グローブハウスⅢに常駐するスタッフが、希望者に対して個別カウンセリングを行い、受益者の精神的な安定を図った。また、対象地域の村々を訪問した際に、コミュニティ内で差別や偏見など深刻な問題が確認された場合は、村長などコミュニティリーダーと協力して、その解決にあたってきた。また、今年は、洋裁技術訓練に受け入れた 20 名の紛争被害者らの中に、レイプ被害者や 14～15 歳で夫から見捨てられた女性など多くが心の傷を抱えており、職業訓練の休憩時間や放課後に個別カウンセリングを行ってきた。また、各村で自給食料を確保する活動をしているグループのメンバーらは、心理的なトラウマよりも、避難先でのコミュニケーションの問題などで相談を

受けることが多く、その都度、個別または各グループと話し合う場を設けたり、レクリエーションを企画するなどして、心理社会的なサポートを行ってきた。

●コンゴ東部南キブ州における緊急人道支援活動【コンゴ】

2014 年 6 月、コンゴ民主共和国南キブ州のウビラ行政区、ムタルレ村において、一般市民が犠牲となる虐殺が発生し、38 名が殺害され、20 名が負傷（うち 10 名は重体）した。その影響で同村 3,800 世帯が近隣の村々に避難を強いられ、親戚や知人などを頼って、長期の避難生活を強いられている。同事業では、サンゲ村へ避難し、頼る知人や、土地、仕事がない 20 家族の人々を対象に、生活を再建するための資金供与（小規模ビジネスの準備金）や、農作物の種子の供与などを行った。

●ブルンジにおける元子ども兵および紛争被害者自立支援センター住民参加型建設プロジェクト【ブルンジ】

昨年度から実施してきた元子ども兵などの紛争被害者の自立を促進していくための施設（オンズ自立支援センター）建設が完了した。同施設では、紛争被害者の自立・社会復帰を支援するための事業実施の活動拠点として活用することとしている。また、建設にあたって、建設資材はすべて現地調達とし、当会の職員及びパートナー団体の代表 2 名を中心に事業管理を行い、建設作業員として元子ども兵を含む紛争被害者や最貧困層の住民 36 名が参加した。

●紛争被害者の能力開発を通したコミュニティレジリエンス向上プロジェクト立案調査【ブルンジ】

オンズ自立支援センターを拠点に実施していく事業の事前調査及び事業立案のための調査を実施した。現地でのニーズ調査、フィージビリティ調査（実現可能性調査）を通して、紛争の影響を受けた人々を対象にした事業が立案され、2015 年度から実施することとなった。同事業では、紛争の影響を受けた対象地域の人々が、コミュニティに内在する資源や強みを活かし、地域社会が抱える課題や、さまざまなリスクに対して、しなやかに適応できるよう、対象者の能力向上、生産性向上、商品化及び、ブランディング・マーケティング支援を 3 カ年計画で実施していく。

【写真(左)オンズ自立支援センターの看板の前での記念写真撮影風景】
【写真(右)ブルンジでの新規事業の調査活動を行う当会現地職員と現地住民】

国内事業

1．啓発事業

本会の活動や、取り組んでいる課題（地雷、小型武器、子ども兵）についての啓発活動を、講演やイベントなどの実施を通じて積極的に取り組んだ。

●講演

本会職員による講演を行政、企業・団体、教育機関等で計 176 回実施した。

●主催イベント（25 件）

毎回定めたテーマについてスピーカーが話をするテラ・カフェ、当会の活動内容を報告するテラ・スタイルを、それぞれ年間を通じて開催した。

2014/04/09（水）第 12 回テラ・スタイル東京
2014/04/09（水）第 35 回テラ・カフェ「あなたにもワクワクを！ テラ・ルネッサンス×元開発コンサルタント～新しい仕組みを生み出す理由～」
2014/05/14（水）第 13 回テラ・スタイル東京
2014/05/14（水）第 36 回テラ・カフェ「カンボジアスタディーツアー報告会～僕らはあの一瞬（とき）を、忘れない～」
2014/06/11（水）第 14 回テラ・スタイル東京
2014/06/11（水）第 37 回テラ・カフェ「僕のこだわり。ラオスにおけるプロジェクトマネジメント～こうして僕はラオスを変えるために一歩を踏み出した～」
2014/07/09（水）第 15 回テラ・スタイル東京
2014/07/09（水）第 38 回テラ・カフェ「ブルンジの今と可能性～ブルンジの未来について考えてみませんか～」
2014/08/06（水）第 16 回テラ・スタイル東京
2014/09/10（水）第 17 回テラ・スタイル東京
2014/09/10（水）第 39 回テラ・カフェ「変化し続けるテラ・ルネッサンス～より分かりやすく伝える工夫～」
2014/10/08（水）第 18 回テラ・スタイル東京
2014/10/18（土）第 40 回テラ・カフェ in 清水寺「あなたにできること～京都・清水で考えてみませんか～」
2014/11/12（水）第 19 回テラ・スタイル東京
2014/11/12（水）第 41 回テラ・カフェ「社会をちょっとよくするアイテム～その可能性を一緒に考えてみませんか？～」
2014/12/07（日）チャリティパーティ
2014/12/10（水）第 20 回テラ・スタイル東京
2014/12/10（水）第 42 回テラ・カフェ「ウガンダの今とこれから」
2015/01/14（水）第 21 回テラ・スタイル東京
2015/01/14（水）第 43 回テラ・カフェ「あなたの“おもい”が世界をめぐる～モノを集

めて支援すること～」
2015/02/10（火）第 22 回テラ・スタイル東京 「鬼丸昌也講演会『一歩を踏み出す勇気』～私たちは、ビリョク（微力）だが、ムリョク（無力）ではない～」
2015/02/17（火）第 1 回テラ・スタイル京都
2015/02/18（水）第 44 回テラ・カフェ「カンボジアの今とこれから～彼らが今必要としているものとは～」
2015/03/11（水）第 23 回テラ・スタイル東京
2015/03/11（水）第 45 回テラ・カフェ「今も続く震災復興支援～私たちが目指す“自立と自治”とは～」

●各種イベント（11 件）
　下記イベントに参加し、本会の活動紹介や取り組んでいる課題の啓発などを行った。

2014/04/20（日）きょうのごはんに大感謝祭！（京エコロジーセンター）
2014/06/21（土）第 8 回チャリティバドミントン大会 in 大阪（頑張らないバドミントン研究会）
2014/09/13（土）国際協力ステーション 2014（JICA 関西、（公財）京都府国際センター）
2014/09/21（日）ソーシャルシネマダイアログ＠カンテレ（ピースデーイベント）（関西テレビ放送㈱）
2014/10/04（土）～10/05（日）グローバルフェスタ JAPAN 2014（グローバルフェスタ JAPAN 2014 実行委員会）
2014/11/03（月）京都ヒューマンフェスタ（京都人権啓発推進会議、京都人権啓発活動ネットワーク協議会、京都府）
2014/11/16（日）清水寺から世界へ！～思いやりの心と平和の輪～
2014/12/13（土）協同シンポジウム in きょうと（近畿ろうきん京都地区統括本部、京都生活協同組合）
2014/12/26（金）ワン・ワールド・フェスティバル for Youth（(公財）大阪国際交流センター）
2015/02/07（土）～02/08（日）ワン・ワールド・フェスティバル（ワン・ワールド・フェスティバル実行委員会）
2015/03/08（日） Ecology×International～えいこん話～vol.5（京エコロジーセンター）

●インターネット
　公式ウェブサイト、鬼丸昌也サイト、大槌復興刺し子プロジェクトオンラインショップ、公式ブログ、カンボジア事務所ブログ、理事長ブログ、職員ブログを運営し、適宜、活動の最新状況を伝えるべく更新作業を行った。メールマガジン「テラ・ルネニュース」を定期的に発行し、1,039 名（2015 年 3 月 31 日現在）の読者に、活動報告、イベント情報などを提供した他、Facebook や Twitter でも告知を行った。

●報道

講演やイベントを開催するごとに、プレスリリースを発行し、取り組みが報道されるように努めた。結果、今年度は 29 件のメディアに掲載された。

【メディア掲載（重複を除く)】

京都新聞、奈良日日新聞、ニッキン、日本経済新聞、新潟日報、SankeiBiz 、週刊金曜日、中部経済新聞、朝日新聞、東京新聞、週刊東洋経済、毎日新聞、FM ひらかた、TBS、岩手朝日テレビ、NHK、IBC 岩手放送

●フェロー、インターン、ボランティアの受け入れ

今年度は、35 人のインターン、6 人のボランティアを受け入れた。

テラ・ルネッサンス		昨年度の継続受入　12 人	
独自受入インターン（半年～1 年以上）		新規受入 19 人　　計 31 人	
受入目的	①長期的に事業にかかわってもらうことで、当会の事業を担う人材を育成する。		
	②当会の事業を通じ、「平和な社会」を自ら作り出せる人材を育成する。		
受入実績	継続～03 月	京都嵯峨芸術大学 5 回生	広報事業担当
	継続～03 月	神戸大学大学院 2 回生	啓発、海外事業担当
	継続～07 月	社会人	広報事業担当
	継続～07 月	関西学院大学 3 回生	meguru、人材育成事業担当
	継続～07 月	社会人	啓発、海外事業担当
	継続～12 月	関西学院大学 4 回生	広報事業担当
	継続～継続	立命館大学 4 回生	meguru 事業担当
	継続～継続	立命館大学 3 回生	広報事業担当
	継続～12 月	京都府立大学 4 回生	支援者サービス､広報事業担当
	継続～07 月	関西学院大学 3 回生	meguru 事業担当
	継続～継続	立命館大学 2 回生	meruru、啓発事業担当
	継続～03 月	龍谷大学 3 回生	meguru 事業担当
	04 月～継続	立命館大学 2 回生	イベント、啓発事業担当
	04 月～継続	龍谷大学 2 回生	広報事業担当
	04 月～継続	神戸市外国語大学 2 回生	海外事業担当
	04 月～03 月	奈良県立大学 3 回生	募金箱事業担当
	06 月～継続	龍谷大学 3 回生	資金調達担当
	08 月～03 月	京都大学大学院 2 回生	イベント、啓発事業担当
	09 月～継続	関西学院大学 3 回生	支援者サービス担当

	09 月～03 月	社会人	イベント、啓発事業担当
	09 月～継続	神戸市外国語大学 3 回生	海外事業担当
	10 月～継続	立命館大学大学院 1 回生	広報事業担当
	10 月～継続	神戸大学大学院 1 回生	イベント、啓発事業担当
	02 月～継続	同志社大学 4 回生	資金調達担当
	02 月～継続	大阪市立大学 3 回生	海外事業担当
	02 月～継続	京都女子大学 3 回生	募金箱事業担当
	03 月～継続	同志社大学 2 回生	イベント、meguru 事業担当
	03 月～継続	関西外国語大学 2 回生	支援者サービス担当
	03 月～継続	京都教育大学 2 回生	meguru 事業担当
	03 月～継続	同志社大学 2 回生	広報事業担当
	03 月～継続	神戸市外国語大学 2 回生	meguru 事業担当

NPO 法人ドットジェイピー グローバルインターンシップ（2 カ月間）			4 人
受入目的	当会の事業を通じ、国際的な感覚を持った人材の育成を行う。		
受入実績	08 月～09 月	同志社大学 1 回生	啓発事業担当
	08 月～09 月	同志社大学 1 回生	啓発事業担当
	08 月～09 月	同志社大学 2 回生	啓発事業担当
	02 月～03 月	立命館大学 1 回生	啓発事業担当

２．東日本大震災における被災者支援「ともつな基金」事業に関する報告

●大槌復興刺し子プロジェクト

■プロジェクトの事業方針

2011 年 8 月から運営母体となった本プロジェクトで、「東北地方に根ざした伝統技術『刺し子』を活用した事業を展開し、大槌町を含めた岩手・三陸地方での雇用機会の創出を実現し、地域社会の復興、伝統技術の継承や振興に貢献する」という事業方針のもと、活動を行った。

■プロジェクトの活動

被災地である岩手県上閉伊郡大槌町において、家族や住居等を失った女性を含め、主として大槌町の女性が「刺し子」商品を制作できるように技術講習会を行った。制作された商品を当会が買い取り、インターネット等で販売を行った。毎週開催する「刺し子会」で買い取りを行い、被災された方々がともに作業し、交流する場を提供した。

このように、商品制作代金の支払いを通じて生活再建を促進すること、また被災された方々の相互交流を活性化させ、心のケアを図ることを主な目的として活動を行った。

■プロジェクトの実績
＜2014 年 4 月 1 日～2015 年 3 月 31 日＞
販売枚数：　20,753 枚
売　上：　25,470,954 円
刺し子さん（※）の人数：　63 人
刺し子さん（※）の収入：　5,011,671 円

※刺し子商品を制作する方

かもめポロシャツ

刺し子会の様子

スタッフで商品企画会議

●三陸沿岸のストリートビュー撮影

Google の復興支援プロジェクトである「東日本大震災デジタルアーカイブプロジェクト」にパートナーとして協力、海から見た三陸海岸の景観をストリートビューで撮影した。

ストリートビューは Google が提供する地図製品 Google マップの一機能で、街中等を 360°のパノラマ写真で見ることができるものである。当会は、2014 年 6 月～2015 年 2 月にかけて、宮城県（石巻市、南三陸町）、岩手県（大槌町、大船渡市、釜石市、宮古市）を船で回り撮影した。

ストリートビュー撮影風景

●大槌町・釜石市の水産業支援

１）船越湾のがれき調査

新おおつち漁協、東京大学と共同で、大槌町と山田町にまたがる船越湾内で、養殖漁業の妨げになる海底のがれきの有無や位置を調査し、地元漁業を支援した。

・実施期間：2014 年 7 月 31 日～2014 年 8 月 6 日

２）漁業支援

大槌町、釜石市の地元漁業支援のコーディネート、及び現場での活動を下記のように行った。

・アワビの放流（大槌漁協／2014 年 7 月）

・定置網周辺調査(釜石東部漁協／2014 年 9 月)

・ホヤの種苗採取（大槌漁協／2014 年 12 月）

海底をモニターで確認する東京大学スタッフ

ホヤの種苗採取

●大槌情報共有会の開催

2012 年 11 月から月に 2 回、大槌町の支援団体が情報共有を行う会を主催し、大槌役場、中間支援団体も含め、情報共有をする場として認知され定着している。各回 5～10 団体が集まって情報共有を行い、Facebook グループで登録メンバーに議事録を共有している。また、同 Facebook グループで、復興支援関係の情報交換も行われている。

参加状況（2015 年 3 月 31 日時点）は、計 29 団体が登録し、Facebook グループには 219 人が登録している。

３．組織運営に関する報告

●会員現況（2015 年 3 月末日現在）

正会員 125 名、個人賛助会員 324 名、ジュニア賛助会員 17 名、団体賛助会員 103 団体、ファンクラブ会員 775 名　【合計延べ 1,344 名・団体】

●協力団体との連携

今年度は 9 団体に加盟し、さまざまな協働事業、キャンペーンなどを実施し、自団体の活動を展開する上で有益な情報を得ることができた。

加盟団体：特定非営利活動法人関西ＮＧＯ協議会、 地雷廃絶日本キャンペーン、日本小型武器行動ネットワーク、児童労働ネットワーク、ウガンダ小型武器行動ネットワーク、国

際小型武器行動ネットワーク、世界子ども兵禁止連盟、京都ＮＧＯ協議会、グルＮＧＯフォーラム
協働団体：ウガンダ小型武器行動ネットワーク、MAG、GUSCO、CEDAC

体制

●役員（理事、監事）
2014 年度の役員は、次のとおり。(2015 年 3 月 31 日現在)
理事　小川真吾（理事長)、中井隆栄、岡田則子、鬼丸昌也、新居真衣
監事　鯉田勝紀

●組織・運営体制（2015 年 3 月 31 日現在）
京都事務局　有給専従職員 5 名､有給非専従職員 1 名､インターン 20 名で運営を行った。
岩手事務所　有給専従職員 3 名、有給非専従職員 3 名で運営を行った。
ウガンダ事務所　ローカルスタッフ 13 名で運営を行った。
カンボジア事務所　日本人有給職員 1 名、ローカルスタッフ 6 名で運営を行った。
コンゴ事務所　ローカルスタッフ 6 名で運営を行った。

●受賞・表彰
第 25 回 ヒューマンかざぐるま賞［公益財団法人京都オムロン地域協力基金］
第 4 回 自由都市・堺 平和貢献賞［堺市］
第 3 回 エクセレント NPO 大賞　組織力賞ノミネート［「エクセレント NPO」をめざそう市民会議］